

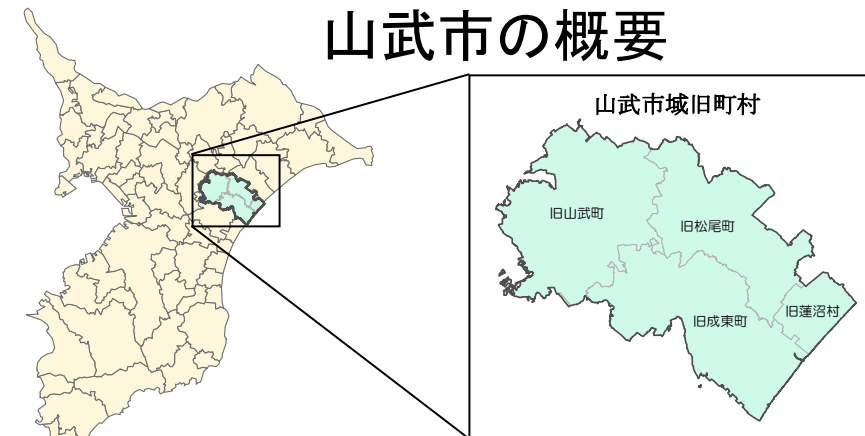
生物多様性保全に関する取組

～山武市森林再生への取組～

山武市経済環境部農林水産課
バイオマス推進室
平成23年2月

1

山武市の概要



平成18年3月27日、成東町、山武町、蓮沼村、松尾町の4町村が合併して誕生

人口：57,351（H.23.2.1 住民基本台帳）

面積：146.38 k m²

地理：千葉県東部に位置、千葉市や成田国際空港より10～30km、
都心より50～70kmで、九十九里浜の中央約8kmに渡り太平洋に面する。

産業：農林業、観光業が主産業。かつては、漁業も盛んだったが現在は衰退。

サンブスギ

資料1－2

- ・サンブスギは山武地域で生まれた優良な性質を多く持つ挿し木スギであり、250年以上挿し木造林の技術とともに受け継がれてきた
- ・江戸へは建築材や建具として、九十九里へは、船材、漁師納屋の材料として供給
- ・通直で枝が細く、心材が赤く美しいなど多くの優秀な性質を持つ
- ・挿し木のため、花粉をほとんど付けない
- ・県内のみではなく全国各地で植栽されている

3

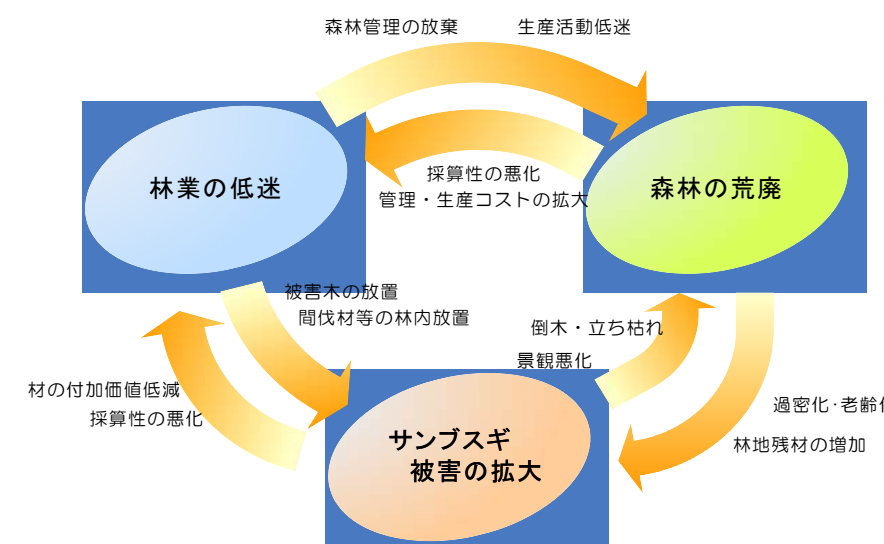
- ・燃料革命
- ・木材価格の低迷
- ・林業後継者不在
- ・スギ非赤枯性溝腐病

スギ非赤枯性溝腐病

- ・「チャアナタケモドキ」という病原菌
- ・3～5年の潜伏期間を経た後、上下方向に菌糸を広げて幹部の形成層等を腐朽させる。
- ・溝は地上1～3m付近に見られる事が多い
- ・市内のサンブスギの8割以上が被害



サンブスギ被害林拡大に至る悪循環



6

森林整備の推進と発生材の有効活用の検討が必要

- ・平成16年度
千葉県木質バイオマス新用途開発プロジェクトに参入（旧山武町）
高機能木炭部会：H16～20
木質プラスチック部会：H19～23
- ・平成17年度
山武町バイオマスタウン構想策定＜千葉県で最初＞
- ・平成20年度
山武市地域新エネルギービジョン策定
山武市バイオマスタウン構想策定

8

ウッドバイオマスプラスチック



地域の森林資源を工業原料化する新産業の創出

- ・地域バイオマスを原料として活用
- ・ウッドプラスチックを低コストで生産
- ・プラスチック成型市場での新たなウッドバイオマスビジネスを創出

9

荒廃が進む森林

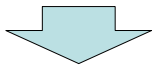
伊勢丹新宿本店「彩り祭」のディスプレイ



山武市地域新エネルギービジョン

山武市バイオマスタウンにおけるエネルギー利用の指針

背景として、サンプスギ利活用の先行事例
ウッドバイオマスタウン構想 (H17.旧山武町)
新用途開発プロジェクト(マテリアル利用)
高機能木炭の生産、木質プラスチックの開発



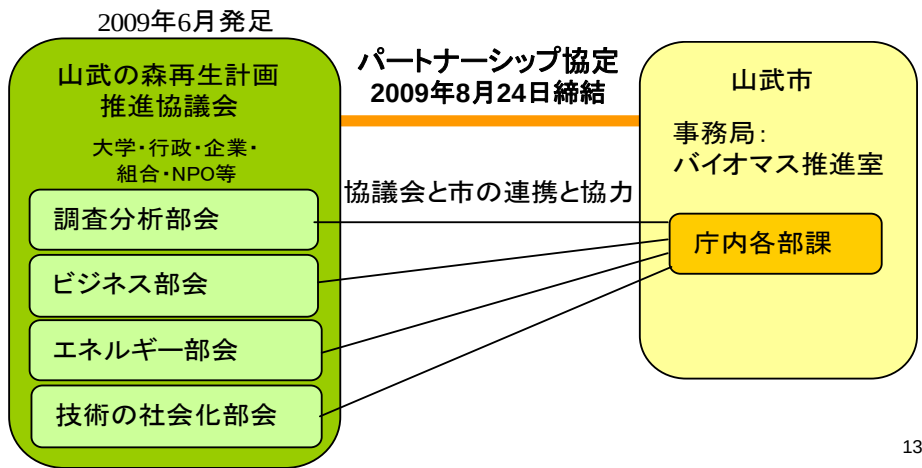
- 2008年6月NEDO地域新エネルギー・省エネルギービジョン策定事業の採択を受け、策定を行った。
- 森林整備と林業の活性化を目的として、初めから木質バイオマス利用をターゲットとしたエネルギービジョン作りを目指した。
- 先行事例の山武町バイオマスタウン構想ではあまり検討されていない原材料の供給と、エネルギー利用について重点的に検討することとした。

間伐材等のペレット利用

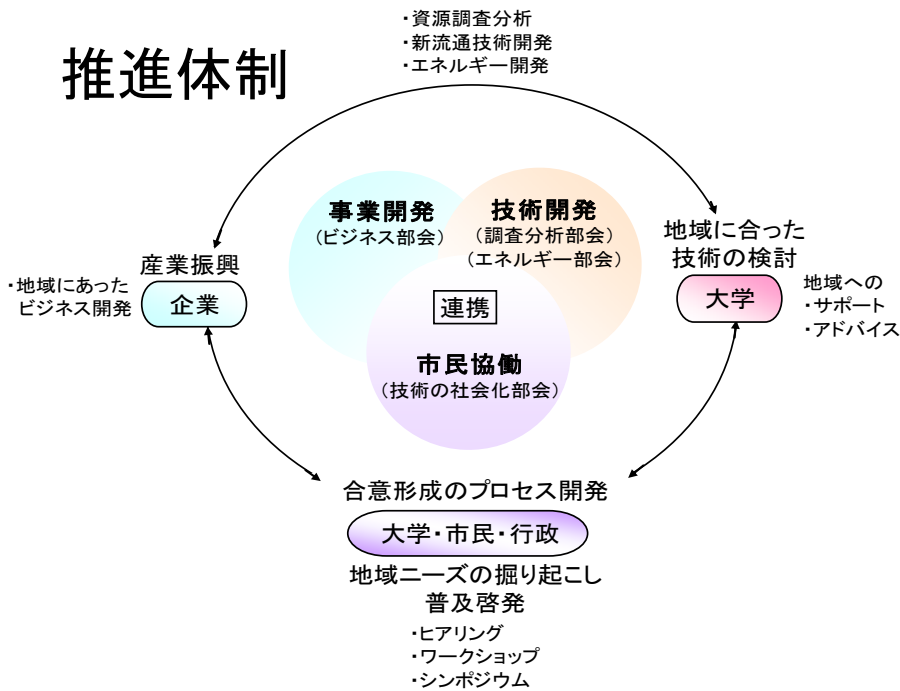


- 平成21年度
- 市内中学校(1校)、市役所庁舎にペレットストーブを計45台導入
 - 小型のペレタイザーを導入し、ペレット製造を実施
- 平成22年度
- 株式会社花島産業とペレットの共同研究開発を開始

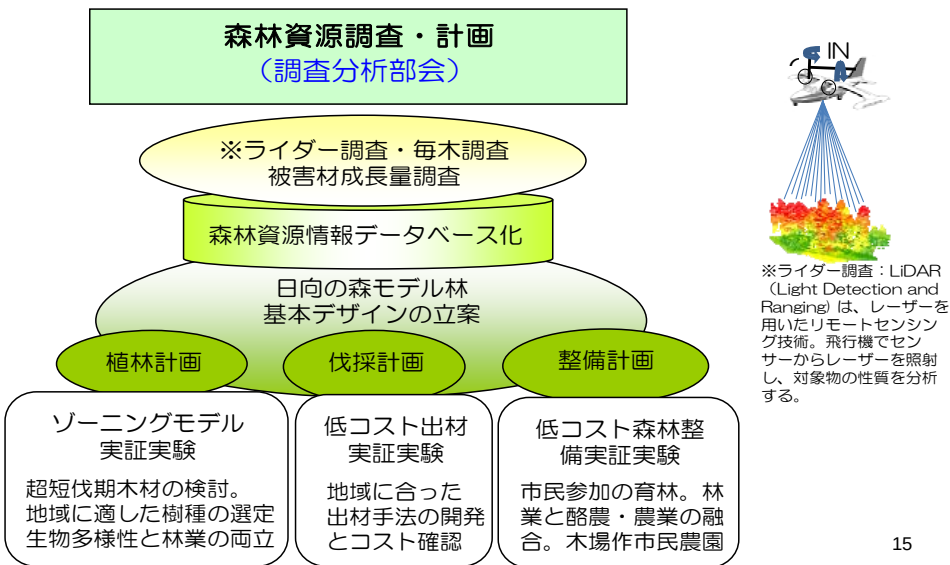
協議会の発足と
パートナーシップ協定



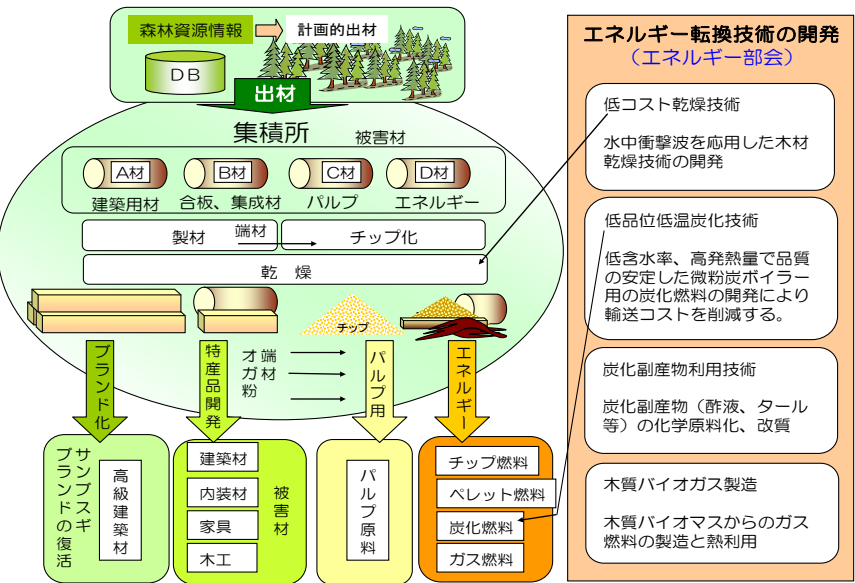
推進体制



バイオマス資源の実態把握

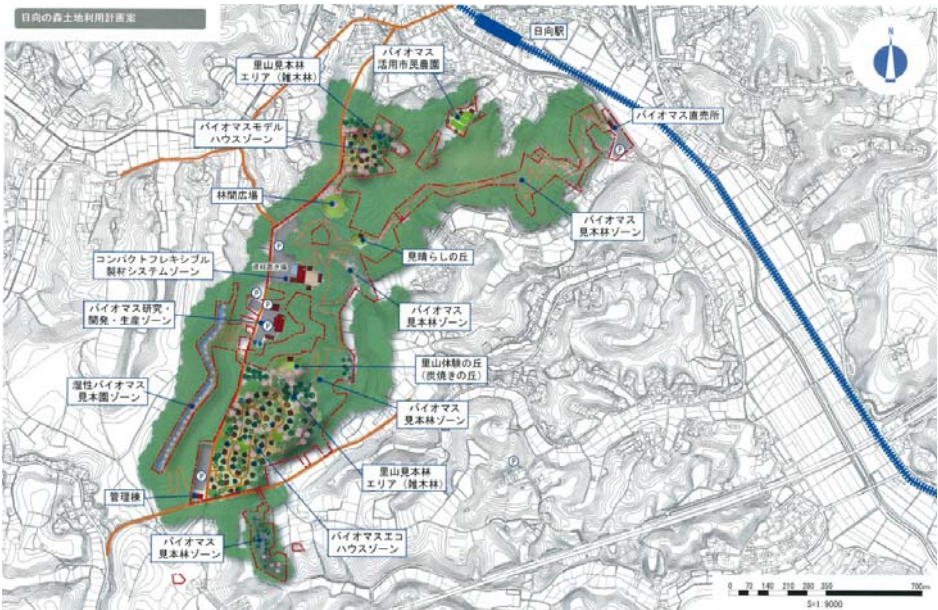


材のグレードによる選別、最適価格需要先へのマッチング
(ビジネス部会)



木質バイオマスを有効利用する技術開発

日向の森をモデル林に
～グランドデザインの実験場・公園～



日向の森の自然再生



日向の森は、丘陵地域と平野部の境界にあたるため、丘陵に谷地形が入り込み谷津を形成している。谷津の奥には湧水の見られる場所もあるなど、多彩な環境に恵まれており、整備・管理の実施によって生物多様性に富んだ森林の再生が図られる。

山武市とワタミ



・ H15年11月 旧山武町において有機農業推進特区が認定され、株式会社ワタミファームが農業に参入、有機栽培による野菜生産を行う。
(圃場面積 8.4ha)

ワタミの森での里山活動 (NPO法人 Return to Forest Life)



・ 里山活動協定(千葉県里山条例)を活用し、山武市内の森林(面積8.5ha)をフィールドとして、社員ボランティアを中心に間伐、下刈、植樹といった森林整備活動を行い、ワタミの森づくりを行っている。

・ ワタミ株式会社のチェーン店舗で販売されているカーボンオフセットカクテルの売上の一部がNPO RFLの環境活動へ寄付されている。

里なび研修会での事例報告



平成22年10月に開催された「里なび研修会」及び「山村文化体験ツアー」

- ・里地里山の保全再生の事例発表 NPO RFL 小出 浩平 氏
- ・有機農業と地域循環の取組紹介 農事組合法人 さんぶ野菜ネットワーク 富谷 亜喜博 氏
- ・山武市バイオマス利用施設の見学会、ワタミの森での整備活動体験や地域の食文化交流会を行った。

ご清聴ありがとうございました

